

令和7年産 仙南稲作情報（第4号）

令和7年7月11日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3496 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

- 5月上旬移植の南部平坦「ひとめぼれ」は、7月22～24日頃には出穂期に到達する見込み。出穂後は「飽水管理」を行う。
- 高温による品質低下を防ぐため、減数分裂期の追肥が有効。
- 斑点米カメムシ対策として、水田周辺の雑草地、農道、けい畔などの草刈りは、可能な限り速やかに完了させる。
- 斑点米カメムシの発生量が多い。出穂期が早くなるため、適期に薬剤防除を実施できるよう準備を行いましょ。

1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～7月9日）

- ・6月14日頃に梅雨入りしたが、平年に比べて降雨量が少なく（49%）、日照時間が非常に長かった（156%）。また、6月中旬から日平均気温が過去の最高気温以上で推移する異常な気象経過を示しており、期間中の平均気温は平年値よりも非常に高くなった（+4.0℃）。

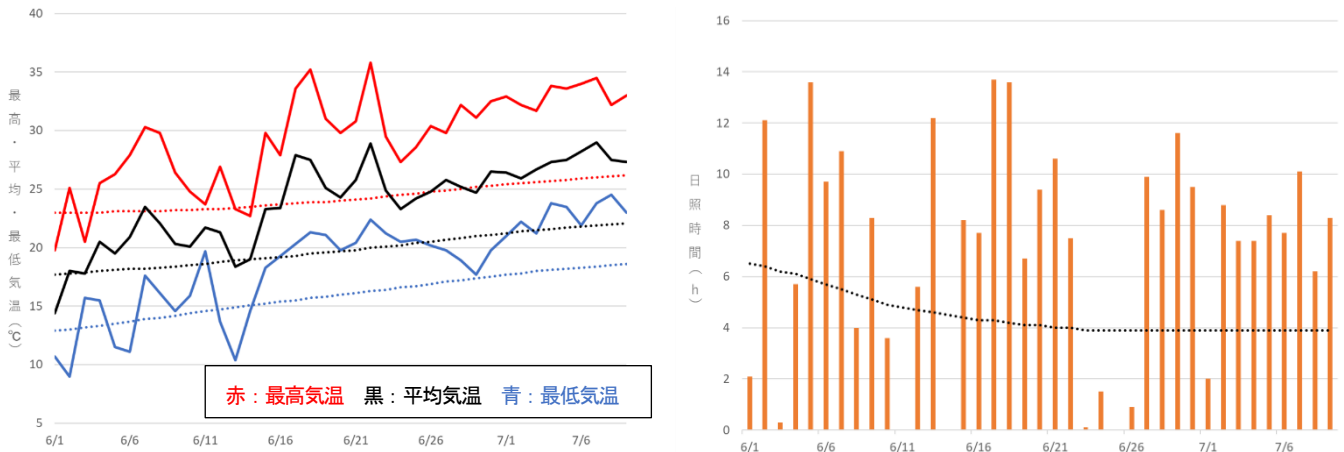


図1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～7月9日）

※仙台管区气象台（7/10 発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、東北地方太平洋側の日照時間は“平年並か多い”、降水量は“ほぼ平年並”、気温は“高い”見込みです。期間の全体（7/12～8/8）を通して、高くなる見込みです。

2 管内の生育状況

(1)【7月10日調査結果】

南部平坦地域では5月下旬移植の調査ほを除き幼穂形成期を過ぎており、生育は早い。葉色が低下しており、追肥が有効。

- ・6月の高温多照により、生育が早まっています。
- ・南部平坦の「ひとめぼれ」は、生育調査ほの幼穂長が約23mmで、まもなく「減数分裂期」に入ります。5月上旬移植の一般ほ場では「減数分裂期」または「減数分裂期」を過ぎていると思われます。

- ・南部平坦の5月上旬植え「つや姫」は、幼穂長が2mmを超え「幼穂形成期」を過ぎています。5月下旬植えでは、幼穂長が0.8mmとなり、ほ場によっては「幼穂形成期」に入っているとみられます。
- ・西部丘陵の「ひとめぼれ」は幼穂長が2mmとなり、「幼穂形成期」の後半です。移植時期が早い場合は、まもなく「減数分裂期」に入るとみられます。
- ・山間高冷の「やまのしずく」は、茎数が平年よりも少なく、葉色は平年並です。幼穂長は1mm以下でまもなく「幼穂形成期」に入ると思われます。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にしてください。

表1 管内の生育調査結果（7月10日）

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長 ※		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m ²)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差	(mm)	平年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/13	5/12	80.1	117%	112%	477	116%	121%	12.2	+0.3	-0.5	34.5	-4.8	-4.6	23.3	+10.4	-54.8
2	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/19	5/18	64.8	109%	98%	312	78%	90%	10.7	-0.3	-0.2	37.0	-5.2	-7.6	2.0	+0.7	-8.2
「ひとめぼれ」平均				5/16	5/15	72.5	113%	105%	394	97%	106%	11.5	-0.0	-0.4	35.8	-5.0	-6.1	12.7	+5.5	-31.5
3	角田市	南部平坦	つや姫	5/23	5/24	65.8	104%	114%	402	89%	135%	11.3	+0.8	+1.8	44.1	+0.5	+0.8	0.8	+0.0	+0.7
4	村田町	南部平坦	つや姫	5/4	5/4	73.2	110%	108%	351	76%	76%	11.4	+0.1	+0.5	30.2	-10.3	-7.8	4.8	+2.0	-3.8
5	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく※	5/26	5/27	63.3	110%	103%	464	91%	109%	未調査	-	-	44.6	+0.2	-3.4	0.5	-0.3	-2.0

◆ 平年値は前5か年(R2～R6)の平均値。ただし、幼穂長のみ令和6年を除いた4か年(R2～R5)の平均値。

※白石市「ひとめぼれ」及び七ヶ宿町「やまのしずく」は前年度から調査ほ場を変更しているため、平年比・差や前年比・差は参考。

※七ヶ宿町「やまのしずく」のみ、7月7日に調査を実施している。

(2) 「だて正夢」(粘りの強い低アミロース品種)

- ・南部平坦の5月上旬植え「だて正夢」は、幼穂長が15.3mmとなり、まもなく「減数分裂期」に達するとみられます。草丈は平年よりも長く、茎数はやや多くなっています。葉数は平年並、葉色は淡くなっています。

表2 だて正夢の生育調査結果（7月10日実施）

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
			本年	前年	(cm)	平年値	平年比	(本/m ²)	平年値	平年比	(枚)	平年値	平年差	(GM)	平年値	平年差	(mm)	平年値	平年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/6	5/5	82.5	74.7	110	443	418	106	11.7	11.5	0.2	37.4	40.4	▲3.0	15.3	6.0	9.3

※角田市「だて正夢」の平年値は、令和元年～5年の5年平均。

3 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

表3 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
出穂前日数	25日	15日	12日
幼穂長(mm)	1～2	30～40	80～100
葉耳間長(cm)	-	-10	±0

○葉色や生育ステージのほ場間差が見られます。今後は、生育状況に応じた追肥や、病害虫防除の実施が重要です。

○生育ステージは、「ほ場ごと」に異なるので、「ほ場ごと」に幼穂長を測定するなど、正確な生育ステージを把握に努めましょう。

(2) 水管理

○中干し終了後、出穂期までは「かん水」してから自然落水し、2～3日田面を乾かしてから「かん水」する「間断かん水」を行い、根に十分に水分と酸素を供給しましょう。

○出穂期は稲が必要とする水分が多くなります。出穂期には湛水しましょう。

○出穂期以降は、高温による品質低下を少しでも防ぐため、「飽水管理※」を行い、土壌を湿潤状態で保ちましょう（出穂後30日頃まで）。

💡 倒伏が心配される復元田等では、目標莖数を確保後、落水期まで自然落水後に田面を乾かす期間を長めにとりながら、「間断かんがい」を行いましょう。根の健全化と茎の充実を図る水管理です。

💡 用水の確保が難しい場合は、幼穂形成期～出穂期までは飽水管理とし、ほ場を湿潤状態に保ってください。また、出穂期はできるだけ浅水管理～間断かん水とし、用水が不足する場合は飽水管理としてください。

※飽水管理の方法

- ①水尻を閉め、畦畔からの漏水が無いか確認する。
- ②田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- ③水を止めたら水尻を閉めたまま、自然減水させる。
- ④水田の足跡に水が無くなる頃、または番水のタイミングで次の水を入れる（目安は3～5日おき）。

◎飽水管理は、地温の上昇を抑制し、白未熟粒の発生を抑制できます。

(3) 追肥

□ 高温による品質低下を防ぐため、**減数分裂期の追肥を実施**しましょう。

・追肥は、幼穂長を調べて、「幼穂形成期」又は「減数分裂期」に行いましょう。

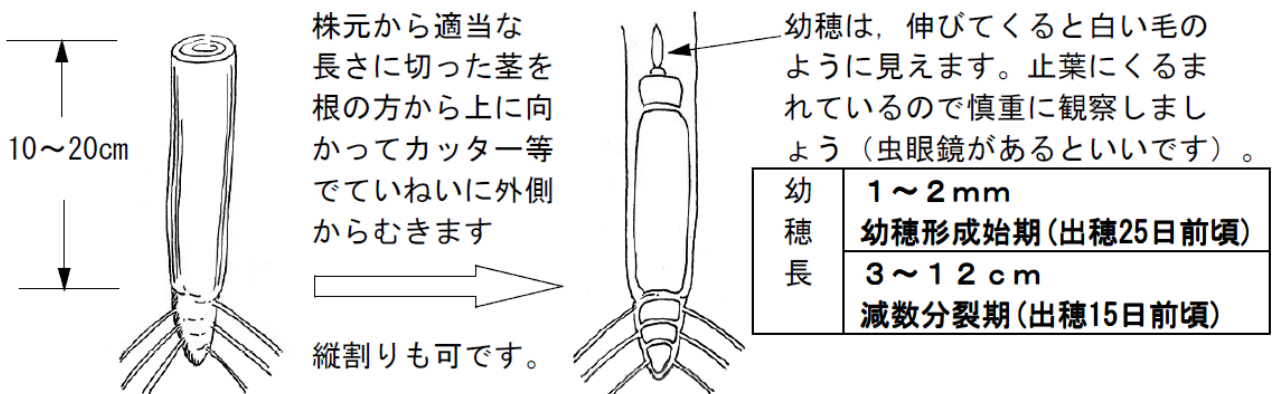
※品種によって、追肥回数や追肥時期が異なりますので、次項を参照ください。

・幼穂形成期の追肥は、分けつの退化防止と1穂粒数の増加に効果的です。

しかし、追肥量が多すぎると、下位節間を伸長させ倒伏を引き起こしたり、粒数過剰となり登熟不良を招いてしまいます。

・減数分裂期の追肥は、登熟初期の光合成能力向上により、登熟歩合の向上や乳白粒等の低減効果が期待されます。

【幼穂長の調べ方】



※適正な追肥量は食味に影響しません。

□ 追肥の判断について

- ・葉色を測定して、葉色が目安の範囲内以下でしたら追肥をしましょう！なお、今年度の気象経過から、葉色は平年よりも淡くなっている傾向だと思われます。
- ・葉色の測定は、「葉緑素計（SPAD-502）」又は「葉色板（富士平工業の7段階表示のカラースケール）」を用います。
- ・下表のカラースケール又は葉緑素計の値から追肥の判断ができます。

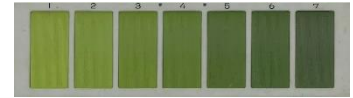


表4 穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期（出穂約25～20日前）			減数分裂期（出穂約15～10日前）		
	葉色		追肥窒素量	葉色		追肥窒素量
	カラースケール	葉緑素計		カラースケール	葉緑素計	
ひとめぼれ	4.4 ～ 4.8	38 ～ 40	1kg/10a	4.0 ～ 4.3	35 ～ 37	1kg/10a
つや姫	4.0 ～ 4.3	35 ～ 37	2kg/10a	—		
まなむすめ	4.0 ～ 4.3	35 ～ 37	2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.5 ～ 3.8	32 ～ 34	1～1.5kg/10a
だて正夢	—			4.3 ～ 4.6	37 ～ 39	2kg/10a

注) カラースケールの値は、県稲作指導指針（基本編）に記載されている

「葉緑素計値（SPAD502値）×0.162－1.709」で計算した値を使用しています。

※「だて正夢」の追肥について

- ・「だて正夢」の追肥は、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aを施用することが基本です。
- ・ただし、有効茎数の不足が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分でそれぞれ1kg/10aずつ施用してください。

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	64～70	76～82
茎数(本/m ²)	390～460	380～420
葉色（SPAD値）	40～42	37～39
葉色板（単葉）	4.8～5.1	4.3～4.6

※「だて正夢」栽培暦より
（収量540kg/10a）

(4) 病虫害防除

①いもち病

- ・発生状況は平年並。
- ・ほ場の見回りと穂いもちの予防防除に努めましょう。

- ・管内では、7月上旬以降、葉いもち感染の「準好適条件」が出現しています。上位葉の葉いもちは穂いもちの発生源となるため、今後重要な時期が続きます。
- ・箱施用剤を使用している場合でも7月中旬以降効果が低下するため、ほ場の見回りを行い、発生が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除してください。

②斑点米カメムシ類

□場所によっては10日前後で出穂すると予想されるため、水田周辺の雑草地、農道、けい畔などの草刈りは、可能な限り速やかに完了させる（今年度は、令和5～6年度と同様に**出穂が大幅に早まる見込み**です）。

※稲の出穂期前後に草刈りを行うと、カメムシ類を水田に追い込んでしまうので、草刈り時期を逸さないようにしましょう。

□出穂期以降の薬剤防除

- 薬剤防除は、**穂揃期とその7～10日後の2回防除**が基本です。
- ホタルイ残草田では、1回目の防除時期を早めましょう（出穂始～穂揃期）。
- 出穂後、やむを得ず水田周辺の牧草等を刈取る場合は、刈取り後直ちに水田の薬剤防除を実施しましょう。

□雑草刈取り及び薬剤防除は広域的に行うと効果が高いので、地域一斉防除に努めましょう。

□水田内にヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類が水田内に生息しています。出穂前に、水田内の雑草を防除しておきましょう！



< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ

草刈りでたたく

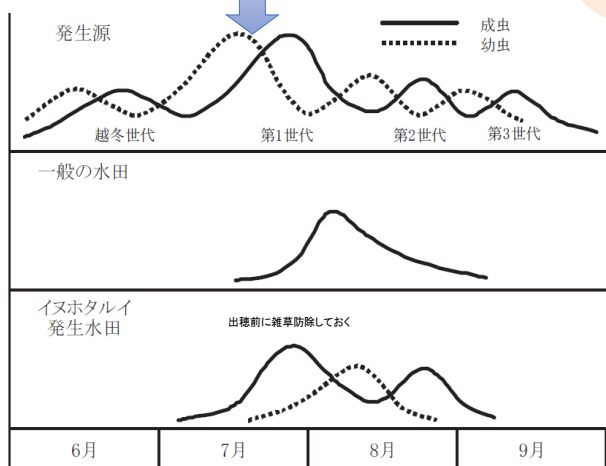


図 アカスジカスミカメの発生源及び水田における発消長

斑点米カメムシ類の防除対策

5～6月	7月	8月	9月
移植期		穂揃期	7月10日後
		● 水田内の雑草対策	● 薬剤防除(1回目)
	● 畦畔・雑草地の草刈管理	● 牧草地の適正な刈り取り管理	● 薬剤防除(2回目)

防除時期は早まります！



農研機構

© 2021 NARO

③イネカメムシ

< イネカメムシ >

- 令和5～6年度に、福島県内でイネカメムシの発生が確認されました。イネカメムシは、斑点米や不稔による減収の被害を生じさせます。
- イネカメムシの体長は**12～13 mm程度**です。イネカメムシや形状がよく似たカメムシを見つけた場合は、大河原農業改良普及センターや県病害虫防除所へ情報提供をお願いします。

○大河原農業改良普及センター先進技術第一班 TEL: 0224-53-3496

○病害虫防除所予察班

TEL: 022-275-8982

4 直播栽培における管理のポイント

【7月10日調査結果】

- ・湛水直播栽培の普及展示ほの生育は、草丈はやや長く、莖数は少なく、葉数は多く、葉色はやや淡くなっています。幼穂長は0.3mmで「幼穂形成期」には入っていません。

表5 生育調査結果（7月10日）

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/m ²)		草丈			莖数			葉数			葉色		
		本年	平年	本年	平年	(cm)	平年値	平年比	(本/m ²)	平年値	平年比	(枚)	平年値	平年差	(GM)	平年値	平年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/9	5/10	50.8	58.3	59.0	56.3	105%	434	518	84%	11.7	10.0	+1.7	42.4	43.7	-1.3

① 水 管 理

- ・中干し以降の水管理は、移植栽培と同様に「間断かん水」としますが、田面を乾かして倒伏を防止するため、乾かす期間を長めにとりましょう。

② 追 肥

- ・減数分裂期に1回、窒素成分量で10a当たり1kgの追肥を考慮しましょう。ただし、倒伏等が懸念される場合は、追肥を控えましょう。

③病害虫防除

【葉いもち】

- ・葉いもちの早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展するケースが多いので、初発の確認が遅れないようにしましょう。

【イネツトムシ（イチモンジセセリ）】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では、7月中旬頃の葉色が濃く、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生予察情報や現場の発生状況をもとに、8月上旬頃の若齢幼虫の発生最盛期に防除しましょう。

○令和7年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

- 農薬の使用に当たっては、
農薬のラベルをよく読み、周辺へ配慮し、飛散防止対策を徹底しましょう！
- 最新の農薬情報は、農林水産省ホームページで確認できます。

(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/index.html)



○これから暑い時期を迎えます。熱中症に注意しましょう！